

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】平成24年9月6日(2012.9.6)

【公開番号】特開2012-97213(P2012-97213A)

【公開日】平成24年5月24日(2012.5.24)

【年通号数】公開・登録公報2012-020

【出願番号】特願2010-247047(P2010-247047)

【国際特許分類】

C 0 8 L 9/02 (2006.01)

C 0 8 K 3/04 (2006.01)

F 1 6 C 33/76 (2006.01)

F 1 6 J 15/32 (2006.01)

【F I】

C 0 8 L 9/02

C 0 8 K 3/04

F 1 6 C 33/76 A

F 1 6 J 15/32 3 1 1 P

【手続補正書】

【提出日】平成24年7月24日(2012.7.24)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 2

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 2】

近年の地球規模の環境問題から、自動車業界においては軽量化と低燃費化が強く望まれている。これを受けて、自動車部品のうちオイルシールのような回転系の部品に関しては、自動車の燃費向上のために低トルク化が求められている。かかる背景より、車輪用転がり軸受も低トルク化が望まれてはいるものの、車輪用転がり軸受は屋外で使用され、極端なケースでは泥水に曝されるような劣悪な環境で使用されるため、その弾性部材(オイルシール)には耐泥水性が求められ、耐泥水性はトルク性能と相反する関係のため、低トルク化が非常に難しいのが現状である。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 0

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 0】

カーボンブラックとしては、SRF、HAF等のカーボンブラックが、NBR 100重量部当り5～50重量部、好ましくは15～40重量部の割合で用いられる。カーボンブラックがこれより少ない割合で用いられると、材料強度が不足するようになり、一方これより多い割合で用いられると、材料硬度が高すぎるようになり好ましくない。